

press release

The 70th Anniversary of the Atomic Bombings on Hiroshima and Nagasaki: War and Peace

芸術家は、
いかに戦争と
向き合ってきたのか



広島・長崎 被爆70周年

戦争と 平和展

平成27年7月25日(土)―9月13日(日)
(2015年)

石内都《ひろしま#69》2007年 テルモ株式会社蔵 Donor: Abe, H. ©Ishiuchi Miyako

まもなく開幕！

会 期:平成27(2015)年
7月25日(土)～9月13日(日)
会期中無休

開館時間:9:00～17:00

※金曜日は20:00まで ※入館は閉館30分前まで
※7月25日は10:00開場

料 金:一般 800円 (600円)
高・大学生 400円 (300円)
中学生以下無料
※()内は前売・20名以上の団体料金



- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

press release

【開会式について】

次の通り、「広島・長崎 被爆70周年 戦争と平和展」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

※現在の予定であり、当日変更となる可能性があります。

日時／平成27年7月25日(土)午前9時30分～

場所／広島県立美術館 2階 ロビー

1 開会の辞

2 主催者紹介・挨拶

- ・広島県立美術館長 千足伸行（紹介・挨拶）
- ・長崎県美術館副館長 金原雅樹（紹介）
- ・広島平和記念資料館長 志賀賢治（紹介）
- ・広島県原爆被害者団体協議会・被爆を語り継ぐ会長 坪井 直（紹介）
- ・広島芸術学会 会長 青木孝夫（紹介）[予定]
- ・ひろしま文化振興財団常務理事兼事務局長 加藤善文（紹介）
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷義則（紹介）

3 来賓紹介

- ・竹田信平 様(紹介)
- ・宮川啓五 様(紹介)

4 協力者紹介

- ・河本真理 様(紹介)

5 テープカット

- ・広島県立美術館長 千足伸行
- ・長崎県美術館副館長 金原雅樹
- ・広島平和記念資料館長 志賀賢治
- ・広島県原爆被害者団体協議会・被爆を語り継ぐ会長 坪井 直
- ・広島芸術学会 会長 青木孝夫[予定]
- ・ひろしま文化振興財団常務理事兼事務局長 加藤善文
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷義則

6 閉会の辞

司会／田中 寿江

(内 覧)

【展覧会概要】

芸術家は、いかに戦争と向き合ってきたのか

被爆70周年を迎える2015年、広島・長崎の両県立美術館が協働し、両館のコレクションと国内の美術館・大学等の所蔵品を通じて、戦争の惨禍と、その対極にある恒久平和の希求をテーマに展覧会を開催します。戦争を大規模化・総力戦化し、近代戦争へと変容させた19世紀のナポレオン戦争を始点として、20世紀の2つの世界大戦を取り上げ、美術は戦争をどのように描いたのか、芸術家たちはいかなる立場から創造し、作風を変容させていったのか。そして、広島と長崎の悲劇と祈りはどのように表象され続けてきたか、その歩みを紹介します。

【展覧会構成と内容】

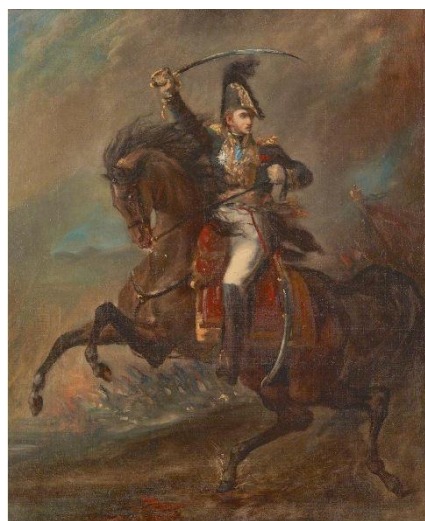
I 総力戦の先触れ

—— ナポレオン戦争の栄光と悲惨

ナポレオン戦争(1803~15)は、徴兵制を採用し、市民も軍事行動のターゲットとする点などにおいて、後の総力戦の先触れとなり、戦争の近代化を推し進めました。

ナポレオンの御用画家たちは、ナポレオンの権威と戦争の勝利を称える歴史画・戦争画や肖像画を制作しました。たとえば、テオドール・ジェリコーは、ロマン主義的な緊張感と動勢に満ちた騎馬像を描いています。

他方、ゴヤは、版画集『戦争の惨禍』において、戦争の凄惨な暴力と不条理さを痛烈に告発しました。とりわけゴヤを転機として、それまで勝者の栄光をもつばら表象してきた戦争画において、戦争の悲惨さがクローズアップされるようになります。



テオドール・ジェリコー《突撃するナポレオン軍の将軍》
1810年頃 東京富士美術館蔵
東京富士美術館イメージアーカイブ/ ©DNPartcom



フランシスコ・デ・ゴヤ
《戦争の惨禍(2)理由があろうとなかろうと》
1810-14年 長崎県美術館蔵
※後期(8月17日~9月13日)に展示

press release

【展覧会構成と内容】

Ⅱ 最初の総力戦と次なる戦争の予感

——第一次世界大戦と両大戦間期の美術(1914～1938)

第一次世界大戦(1914～18)は、ヨーロッパだけではなく、植民地および日本・オスマン帝国・アメリカまでが参戦した世界戦争です。大量破壊・殺戮の幕開けとなり、銃後を巻き込んだ史上初の総力戦は、美術において地滑り的な変動を引き起こしました。

オットー・ディックスは、版画集『戦争』で、戦場体験を迫真的に描き出し、ケーテ・コルヴィッツは、戦争で子を失った母の哀しみと革命後のドイツ社会を表象します。

戦中から両大戦間期にかけては、ダダ、抽象美術、バウハウス、新即物主義(グロス、ベックマン)、エコール・ド・パリ(藤田嗣治)、シュルレアリスム(ミロ、ダリ)など、戦争を直接的・間接的に反映した様々な美術の動向が噴出しました。

しかし、平和な時代は長く続かず、1936年に勃発したスペイン内戦が、次なる戦争を予感させます。



ケーテ・コルヴィッツ《カール・リープクネヒト追悼》
1920年 国立西洋美術館蔵



マックス・ベックマン《ヤールマルクト》
1921年 広島県立美術館蔵

Ⅲ 史上最大の戦争と破局の表象

——第二次世界大戦と美術(1939～1945)

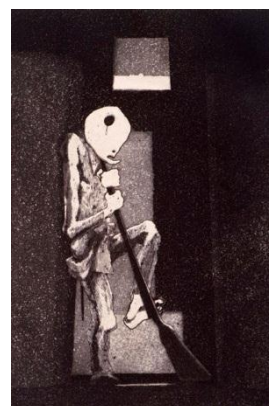
史上最大の総力戦となった第二次世界大戦は、5千万人以上の死者を数え、中でもホロコースト、広島・長崎に対する原爆投下など、未曾有の惨禍が現出しました。

ヨーロッパの多くの芸術家が亡命する中、ピカソはナチス占領下のパリに留まって制作を続けます。第二次大戦では、防空壕での避難生活(ヘンリー・ムーア、ロバート・キャパ)や、強制収容所(ベン・シャーン)も表象されました。

国家総動員体制下の日本においては、「彩管報国」(彩管＝絵筆を執って国に尽くす)の名の下に、多くの画家が戦争画を制作しました(藤田嗣治、宮本三郎、須田国太郎...)。これに対し、一兵卒として従軍した日本の「兵士＝芸術家」(浜田知明、香月泰男)の中には、戦後相当経ってから、かつての戦争やシベリア抑留の体験を表象した作家も少なくないのです。



須田国太郎《学徒出陣壮行の図》
1944年 京都大学(通常非公開)



浜田知明
《初年兵哀歌(歩哨)》
1954年 姫路市立美術館蔵

press release

【展覧会構成と内容】

Ⅳ 被爆70年

——広島・長崎に残された記憶のかたち(1945～)

戦後70年間、芸術家たちは、広島・長崎に起きた悲劇をいかに作品として残すことができるのか、という困難な命題に向き合ってきました。

ジョー・オダネルら写真家が撮影した被爆後の光景に始まり、福井芳郎《ヒロシマ原爆(産業奨励館1947)》、丸木位里・俊《原爆の図》、平山郁夫《広島生変図》ら画家たちも、それぞれの方法で向き合い、咀嚼する時間を要しながら、原爆の惨禍を描き出そうとしました。東松照明は、長崎の被爆後の経過を写真で追いつけています。今日では、こうした記憶を継承する営みは、広島・長崎とは直接縁を持たない芸術家にも引き継がれているのです。

このように、芸術家たちが苦悩しながら描き出した数々の作品を紹介することで、逆説的に平和の尊さを照らし出します。



東松照明《爆風により崩壊した浦上天主堂の天使像》
1961年 長崎県美術館蔵
©Shomei Tomatsu-Interface



福井芳郎《ヒロシマ原爆(産業奨励館1947)》
1948年 広島平和記念資料館蔵

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

戦争と 平和展

press release

【主要作品解説】

1章

ジャック=フランソワ・スヴェバック《タボル山の戦い》

1812年 東京富士美術館蔵

作者は戦争画を得意とし、1799年4月16日にタボル山（イスラエル北部の山）の麓でナポレオンがオスマン＝トルコ軍に勝利を収めた有名な戦いを、幾度か描きました。本作では戦況を明快に示すため俯瞰した構図で描かれ、薄く霞んだ遠景がさらに遠くに見えるように、前景には濃い色調が施されています。また、色とりどりの軍服や馬具は細部まで描き込まれながらも、大勢の兵士や様々な姿態で躍動する馬をバランスよく配しています。



©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPpartcom

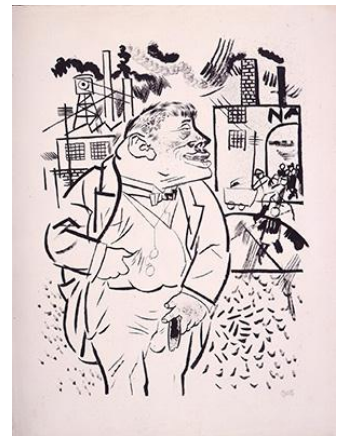
2章

ジョージ・グロス『群盗』

1922年 広島県立美術館蔵

ジョージ・グロスは、社会的な諷刺画を得意としたドイツの画家・版画家です。第一次大戦後の1922年に刊行された本作は、9葉のリトグラフからなります。

ドイツ革命末期の1919年3月、ベルリンでは左翼が武力で弾圧されました。グロスはこの事件に際して、インフレ下で貧困にあえぐプロレタリアートに連帯を表明し、支配階級である資本家との貧富の差や疎外された状況を痛烈に批判する政治的諷刺画として作品を世に残しました。



3章

花岡萬舟《銃後ト戦線ノ勇士》

制作年不詳 早稲田大学會津八一記念博物館蔵

軍の仕事で広島を訪れ、原爆によって亡くなった花岡萬舟の作で、戦場において東の間の安息を過ごす兵士たちの姿が描かれています。画面手前の兵士が読んでいる手紙からは煙が立ち上り、手紙の差出先と思われる故郷の風景が同じ画面に描き込まれています。二つの場面对比されている珍しい構図は、浮世絵から参照したものと見られています。



4章

丸木位里・俊《原爆の図 第3部〈水〉》（部分）

1950年 原爆の図丸木美術館蔵

丸木位里・俊夫妻が被爆直後の広島に約1ヶ月滞在した経験が、1950年から32年間かけて制作された《原爆の図》シリーズに結びつきました。

本作では、原爆の熱風に焼かれ、息も絶え絶えに水を求めて川に集まった人々の姿を描いています。山のように積み上がった累々たる死傷者たちの横には、息絶えた乳飲み子を両手で抱え込む女性があります。《原爆の図》は、位里と俊、二人の個性が衝突を繰り返すことで高い芸術性とメッセージ性を備えました。



戦争と 平和展

press release

【関連イベント】

会場:地下講堂 ※無料、事前申込不要(定員200名)※30分前から受付開始

被爆手記朗読劇「夏の雲は忘れない」

7月25日(土)15:00~16:15

公演:夏の会(主演:高田敏江/長内美那子/中村たつ/岩本多代/寺田路恵/渡辺美佐子)

記念講演会「描かれた戦争:ナポレオン時代を中心として」

7月26日(日)13:30~15:00

講師:千足伸行(広島県立美術館長)

シンポジウム「戦争画と『原爆の図』をめぐる—その政治性と芸術性の問題—」

8月1日(土)14:30~16:30

講師:平瀬礼太(美術史家)、岡村幸宣(原爆の図丸木美術館学芸員)、大井健地(広島市立大学名誉教授)、西原大輔(広島大学大学院教授)

司会:谷藤史彦(ふくやま美術館学芸課長)

共催:広島芸術学会

記念講演会「〈戦争の世紀〉と葛藤する美術—二つの世界大戦とその狭間で」

8月2日(日)13:30~15:00

講師:河本真理(本展学術協力者、日本女子大学教授)

特別セミナー「戦時中のファッションを考える」

8月16日(日)13:30~15:00

講師:津島由里子(安田女子大学非常勤講師)

協力:石田あさきトータルファッション専門学校

シンポジウム「〈現代〉戦争の表象—絵画/写真/文学が交差する戦場」

8月23日(日)13:30~16:30

講師:河本真理(本展学術協力者、日本女子大学教授)、飛嶋隆信(東京農工大学大学院准教授)、久保昭博(関西学院大学准教授)、山下寿水(本展担当学芸員)

美術講座「国内外の展覧会から見る美術と戦争」

9月5日(土)13:30~14:30

講師:山下寿水(本展担当学芸員)

キッズゲルニカ・ワークショップ

平和への想いを伝える大きな絵画をみんなで作ります。

8月10日(月)10:00~16:00

講師:加藤宇章(アトリエぱお代表)

共催:広島芸術学会

対象:中学生以下

参加料:無料

定員:先着35名

お申込み方法:参加希望者は事前に当館(082-221-6246)へ電話予約をお願いします。

※昼食は各自でお取りください。(館内でのご飲食はご遠慮ください。)

戦争と 平和展

press release

会場:1階ロビー ※無料、事前申込不要

被爆体験継承講話「平和の語り部」

8月7日(金)、8月21日(金)、9月4日(金) 各日11:00～

講師:被爆を語り継ぐ会

会場:2階展示室 ※事前申込不要、入館券が必要です。直接、会場入口にお集まりください。

ギャラリートーク

担当学芸員が展示室内で作品解説をします。

7月31日(金)、8月14日(金)、8月28日(金)、9月11日(金) 各日11:00～

ウェブ・レポーター大募集

インターネットを通じ、本展の感想を情報発信していただきます。

7月31日(金)17:00～19:30

対象:ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで情報配信されている一般の方

※実施当日に限り、本展へご招待

【同時開催】

生誕80周年記念 藤子・F・不二雄展

会期:7月18日(土)～9月6日(日)

会場:3階企画展示室

戦争と平和展開催記念展示 日本とアジアの工芸作品 一つながる心 平和の礎

会期:7月4日(土)～9月27日(日)

会場:2階 第4展示室

【開催概要】

展覧会名称:広島・長崎 被爆70周年 戦争と平和展

展覧会英語名:The 70th Anniversary of the Atomic Bombings on Hiroshima and Nagasaki: War and Peace

料金:一般 800(600)円 高・大学生400(300)円 中学生以下無料

※()内は前売り・20名以上の団体料金

・学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所:広島県立美術館、広島市・呉市内の主なプレイガイド・画廊・画材店、ゆめタウン、フジ、中国新聞社読者広報部、中国新聞各販売所(取り寄せ)など

開催クレジット

主催:広島・長崎県美術館平和発信事業実行委員会(広島県立美術館、長崎県美術館、広島平和記念資料館、長崎原爆資料館、広島県原爆被害者団体協議会・被爆を語り継ぐ会、長崎原爆被災者協議会・被爆を語り継ぐ会、広島芸術学会、ひろしま文化振興財団)、中国新聞社

後援:NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー 76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協力:公益財団法人 日本写真家協会

平成27年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 山下寿水、事業推進課 山本恵子